

ぞうほかいつうしょうこう

#2 増補華夷通商考

作者：西川如見（にしかわ・じょけん 1648-1724）

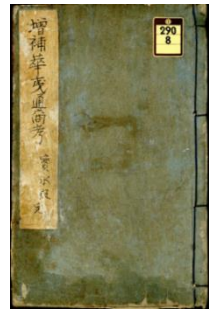
刊行：宝永5年（1708）



📖 解題

■ 内容

日本初の世界地理書。当時日本と直接あるいはオランダ船を介して交易していた国々について、長崎からの距離、緯度、特産物、暮らしや風俗を記したもの。全5巻。構成は、中華十五省(せい)、外国(朝鮮や琉球など中国と冊封関係、漢字圏、儒・仏・道三教を奉ずる国々)、外夷(がいゐ) つまりオランダなど西洋諸国の順である。



本書は、元禄8年(1695)に出版された『華夷通商考』 [290/8] (以下「元禄版」という)の上下2冊本を5冊に分冊し、若干の訂正と、巻5の「外夷増附録」に新たに46カ国を書き足したものである。「作例」には、「元禄版」は自分の草稿を版元が勝手に出版したもので誤りが多かったことから、自ら補訂して出版したとあるが、真偽は定かではない。当館所蔵本にはないが、宝永6年の序を持った版も確認されている。

なお元禄版及び増補部分ともに種本があり、鮎沢信太郎の研究等で種本の推定が行われている。鮎沢は、岩崎克己の説である、唐通詞(通辞、通事) 穎川藤左衛門(えがわ・とうざえもん) とオランダ通詞西吉兵衛(にし・きちべえ) が著した『諸國土産書』と比定し、唐通詞林道栄(はやし・どうえい 1640-1708)が著した『異國風土記』を元禄版の最も近い種本であるとしている。なお岩根保重は『異國産物記』が『華夷通商考』の原稿か、抜粋である可能性を指摘している。増補部分は当時禁書となっていた、在華イタリア人宣教師 Giulio Aleni(ジュリオ・アレニ 艾儒略(がいじゅりやく) 1582-1649)が著した漢訳世界地理書である『職方外紀』を種本としていると鮎沢は述べている。

本書は一部に荒唐無稽な記述があり、中国の皇帝を頂点とし、周囲は未開の野蛮人(夷)であるとする華夷秩序的な世界観も残るが、南北アメリカ大陸など長崎の知識人の元で留まっていた海外知識を広く普及させ、後世に影響を与えた。

■ 作者

本名は西川忠英(ただひで)、号は求林斎(ぐりんさい)、如見は字(あざな)。次郎右衛門とも称した。長崎の貿易商の家に生まれ、長崎に私塾を開いていた儒者南部艸寿(なんぶ・そうじゅ ?-1688)に師事し、その親交のあった小林謙貞(こばやし・けんてい 1601—1683?)に天文学等を学んだ。

📖 本文を読む

<翻刻>

「増補華夷通商考」(『西川如見遺書』第4編 西川忠亮編 西川忠亮 1899)

※国立国会図書館デジタルコレクション(インターネット公開)で閲覧可

「華夷通商考」(『日本経済叢書』第5巻 滝本誠一編 日本経済叢書刊行会

1917) [332. 1/2/5] ※目次には「華夷通商考」とあるが内容は「増補華夷通商考」

「華夷通商考」(『日本経済大典』第4巻 滝本誠一編 史誌出版社 1928)

[308/16/4] ※日本経済叢書の校訂・増補版 内容は同じく「増補華夷通商考」

『日本水土考・水土解弁・増補華夷通商考』飯島忠夫、西川忠幸校訂 岩波書店 1944 <岩波文庫> [イ29/二]

📖 参考文献

岩根保重「蘭学創始以前長崎に於ける萌芽期の近世地理学」(『地球』24(1)

地球學團 1935) ※当館未所蔵 京都大学学術情報ポータルで閲覧可能

『鎖国時代日本人の海外知識:世界地理・西洋史に関する文献解題』開国百年記念文化事業会編 乾元社 1953 [203. 31/1]

「西川如見の「華夷通商考」」(『鎖国時代の世界地理学』鮎沢信太郎著 原書房 1980) [290. 11/9] ※日大堂書店 1943 年刊の復刻版

「西川如見と其の地理学」(『日本の宗教的風土と国土観』内田秀雄著 大明堂 1981) [290. 1/35]

「西川如見」(『日本地理学人物事典』岡田俊裕著 原書房 2011) [290. 12/111/1]